



| はじめに

こんにちは。

初めにこの冊子を手にとっていただきありがとうございます。

この冊子は平成 30 年度環境省一般職自然系内定者がまとめた「内定者の声」です。

環境は地球上に存在する人間をはじめとする哺乳類、鳥類、魚類、昆虫、植物などすべての「生物」に大きく関係しているものです。そんな生物にとって重要な環境や生態系の保全・保護・再生、生物と環境の共生など様々な環境問題に現場を通して改善に取り組んでいくのが、環境省の自然系職員いわゆるレンジャー（自然保護官）の仕事です。

この冊子には環境に対し重要な環境省一般職自然系職員に内定を頂くにいたった内定者全員の環境省への強く志望する想いや目標を達成するための勉強方法をまとめたものです。レンジャーになりたい方はもちろん少しでも興味がある方はこの冊子が少しでもお役に立つのではないのでしょうか。

最後にレンジャーになるために大切なことは、なりたいと思う強い気持ちだと思います。私たちはそれぞれの経験をへて、さまざまな視点からレンジャーになりたい、レンジャーになってこんなことをしてみたいといろいろな気持ちを持ち、それがレンジャーを目指す強い気持ちになりました。そのきっかけや想いが少しでも伝わり、レンジャーを志望する方々の助けや励みになればと思っています。

| 目次

はじめに・目次	p.1
国家一般職試験の流れ	p.2
官庁訪問とは	p.3
内定への道（お世話になった資料・参考書一覧 編）	p.4
内定への道（内定者ボイス・アドバイス 編）	p.6
おわりに	p.21

国家一般職試験の流れ



下記の日程は平成 29 年度のものです。

最新の情報は人事院（国家公務員試験採用情報 NAVI）または環境省の HP をご覧ください。

	日時	内容	ひと言メッセージ
(平成 28 年)	12月1日～	受験案内 ホームページに掲載	申し込み期間を確認してください。
(平成 29 年)	4月7日～4月19日	インターネットによる受付期間	期限に間に合うよう、余裕を持ってエントリーしましょう！
	6月18日	第1次試験日	私服で構いません。
	7月12日	第1次試験合格者発表日	人事院 HP で確認、後日はがき(第1次試験合格通知書)が届きます。
	7月13日～8月20日 (※開催地により異なる)	官庁合同業務説明会	官庁訪問する省庁を決める参考になります。積極的に参加しましょう。
	7月19日～8月7日 (※第1次試験合格通知書で指定された日時)	第2次試験日	人事院の面接です。緊張しますが、落ち着いて話せば大丈夫です。
	8月8日	官庁訪問予約受付開始	官庁訪問希望日と時間帯(午前 or 午後)を記入しメールにて予約します。環境省では、訪問日時が合否に関係することはないようですが、他省庁とのスケジュールをよく考えて申し込みましょう。
	8月23日 午前9時	最終合格者発表日	人事院HPで確認します。後日はがき(合格通知書)が届きますが、官庁訪問に持参する必要はありませんでした。
	8月24日～8月25日	官庁訪問	クールビズで構いません。後悔の無いよう、全力を出し切ってください。
	8月25日	採用内々定	電話またはメールでお知らせが来ます。
	10月2日	最終面接(内定式)	最後の面接です。気を引き締めて、いってらっしゃい。

| 官庁訪問とは



国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験で、いわゆる第1次試験、第2次試験のことです。試験内容は基礎能力試験・専門試験・人物試験等があり、試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。つまり国家公務員になる資格が得られるのですが、この時点では「合格≠採用」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する試験です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します(最新の情報は人事院や環境省のHPでご確認ください)。

| 官庁訪問の予約について

平成29年度の環境省一般職自然系の官庁訪問は電子メールによる事前予約制でした。8月上旬にHP上で予約方法が公開され、同日、官庁訪問の予約が解禁されました。年度により予約方法が異なる場合があるため最新の情報を必ず確認してください。

| 官庁訪問での面接の形式

電子メールで事前予約した日時に訪問し、面接を受けます。待ち時間には職員の方が話しかけてくださったり受験者どうして話したりしていました。

| 平成29年度自然系官庁訪問についてスケジュール

訪問受付日・開始時間

平成29年8月24日(木)、25日(金)

※いずれか一方の日に訪問をします。

対象者

平成27・28・29年度国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)の「土木」、「農業農村工学」、「農学」、「林学」区分最終合格者

受付場所、持ち物、服装

合同庁舎5号館入口にて入館受付をします。持ち物はその際に必要な写真付き身分証明書(学生証など)と、事前に記入した訪問者カードです(環境省採用HPから様式をダウンロード、3.5×4.5cm写真貼付)。服装はクールビズ可でした。

※上記の内容は平成29年度の官庁訪問の情報です。最新の情報については各HP等を参照し、採用担当者の指示に従ってください。

○人事院HP 国家公務員試験採用情報 NAVI <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系（大卒程度）HP

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/index.html

| 内定への道

お世話になった資料・参考書 編

専門試験でよく使ったものBEST3（林学）

1位 林学試験過去問（数年分）

林学区分内定者のほぼ全員が使っており、問題傾向を知るうえで必要不可欠です。また中には総合職試験の過去問も解いたという方もいました。入手方法は、人事院に請求するか、大学・公務員予備校でもらうなどが主です。

2位 森林・林業白書（林野庁）

林業の最新トピックや課題が載っており、林学区分受験者は必読です。最新版のものは購入し、過去のものも電子版でダウンロードするのが良いと思います。

3位 森林・林業実務必携（朝倉書店）

林学や林産に関する様々なことがまとめられています。林業白書に載っていないことも載っているため、過去問を解く際は併せて用いるのが望ましいです。しかしながら高価であることや、林学が専攻でない方には難しい部分もあるなど、少し注意が必要です。

ほかにも…ニューフォレストーズガイド林業入門（全国林業改良普及協会）、環境省・林野庁HP など

専門試験でよく使ったものBEST（農学） ※H29年度より引用

1位 スーパー過去問ゼミ 農学・農業

一般職の過去問が多く載っているのでおすすめです。これを何回かやるだけでもかなり力がつくはず。ポイントがまとまっていて、農学が専門でない方も始めやすいと思います。細かい知識は他の参考書で補いましょう。

ほかにも…農学通信講座（LEC）、プロが教える農業のすべてがわかる本（ナツメ社）、技術系よく出るシリーズ 農学・農業の頻出問題（実務教育出版）、農学基礎セミナー（農山漁村文化協会）など

専門外から独学で受験する人も多くいます。容易な道ではありませんが、専門分野ではないことを理由に諦める必要は決してないようです。

専門試験でよく使ったものBEST（土木）

1位 土木職公務員試験（大学教育出版）

平成30年度土木区分受験者全員が使っていました。一般職（旧国家2種）の過去問とその解答が掲載されているだけでなく、土木工学の専門知識が総まとめされています。

ほかにも…技術系スーパー過去問ゼミ土木（実務教育出版）、国土交通白書など

基礎能力試験でよく使ったものBEST3

1位 国家一般職教養試験過去問500

試験の傾向や時間配分の確認のためにも使えるのでおすすめです。また過去問だけではなく、その解答も掲載されており、内定者の多くが使っていました。

2位 速攻の時事

試験において設問数の少ない時事問題に、どれくらいの時間をかけるのかは個人差があります。そのため、気分転換に使っているという方もいました。

3位 公務員試験マル秘裏ワザ大全

必読ではないが、文章理解の分野で役立つという声がありました。

ほかにも…畑中敦子の判断推理・数的処理・資料解釈ザベストプラス（エクシア出版）、受験ジャーナル（実務教育出版）、公務員試験時事ザ・ベストなど

知能分野（数的処理・判断推理など）は参考書などを利用し、その他の知識分野（社会科学・自然科学など）は過去問をもとに勉強している方が多かったです。

その他（官庁訪問等に使えるもの）

1位 各種パンフレット

（内定者の声、環境省レンジャーの仕事、説明会の資料など）

面接の材料に、そして勉強のモチベーションアップにもつながるアイテムです。

ほかにも…現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）、図で見る環境白書（環境省）、環境省メールマガジン、受験ジャーナル（実務教育出版）、eco検定〈公式テキスト〉（東京商工会議所）など

内定者 A の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・女性・22歳
【参加した説明会・回数】霞が関 OPEN、合同業務説明会などできるだけ(10回以上)
【併願先】県庁(林業)、民間数社(木材商社、報道、独立行政法人)
【インターンシップ】環境省スマートライアル 2016
【試験区分】林学 【専攻科目】生態学

志望動機

幼いころから自然と関わってきた経緯があり、大学では部活動などを通じて林道の整備などの活動を通じ自然と人の両方に関わる中で、自然と人間の間をとりもつ人たちはたくさんいるけれどもその人たちを繋ぐ役割を果たすことができたらいいなと思っていました。

レンジャーの仕事内容について知っていくうちに、国立公園での仕事は自然に向き合うことはもちろん、人と向き合うこともそれ以上に大切にしている仕事だと感じ、自然環境の保全のために人と向き合うことの大切さを感じていた自分にとって、それを一生の仕事にできるのであればなんて面白いだろうと思ったことが志望のきっかけです。また、環境×〇〇の幅が広く、環境行政、環境保全、まちづくり、環境教育…など環境に関わることほぼ全てに挑戦できるであろうことも大きな魅力だと感じ、志望しました。

勉強方法

勉強方法

大学生生活を公務員試験の対策にあまり費やしたくなかった上、自身が追い込まれないと本気を出さないタイプであるため4年次に入ってから試験勉強を始めました(試験まで2か月半…おススメはしません)。戦略としては、1次試験を突破できる最低限のスコアを基礎能力試験・専門試験でとり、2次試験の面接でまあまあの評価をとって最終合格しようと考えていました。国家一般で官庁訪問を考えていたどの省庁も試験の成績よりも人物重視であったため、このような戦略にしました。

こんな荒業が通ったのは、友人から試験の対策方法などを聞くなどして試験情報を把握しており戦略を練ることができたこと、実際に働く先輩に話を聞くなどして自分なりに仕事内容やどのような人物が求められているかなどを理解していたため、面接対策にそれほど気をもむ必要がなかったことの2点が大きかったなと思います。情報収集、大事です。

また、友人～などとお話しましたが、友人と話す(志望省庁に受かったらこんなことをするんだとか語り合っていました)ことはあっても、一緒に勉強をすることは全くありませんでした。友人と一緒に勉強することをいろいろなところでおススメされるかもしれませんが、必ずしもそれが自分のスタイルに合うかといえばそうではないと私は思っています。自分

に合ったスタイルで内定を手に入れられればそれでいいと思います。

自分に合ったスタイルと言えば、公務員講座やら塾やらに試験の1年以上前から通う人がたくさんいて「今からだと間に合わないか…」と思ったり、公務員試験の勉強は難しいということを知って「なら民間に行こうかな」と思ったりする人もいますが、チャレンジを諦めるのはもったいないです(技術系は特に!)。現に4月から勉強を始めた私でも最終合格しているので、諦めないことが大事です。試験勉強が苦しいとか、受験を諦めかけている人に向けたメッセージでした。

基礎能力試験

4年次の4月から始めました。勉強を始める前に過去問を解いてみたところ、基礎能力試験についてはボーダーを超えるであろう点数をとることができたため、することは最小限に絞りました。出題割合の大きいものの点数を上げようと思い、文章理解・英語は満点を、数的処理・判断推理はいろいろなパターンに触れて得点源にすることを目指しました。いずれも対策としては過去問を解いて形式に慣れること(これだけでも点数がとれるようになります)、これだけでした。他の項目については対策をしませんでした。

専門試験

4年次の4月に専門試験(択一式)の勉強を中心に勉強を始めました。幸い林学の試験区分はそれほどボーダーが高いわけではないし、専門試験は勉強すれば点数をとることができると聞いていたからです。過去問ベースで、過去問のすべての選択肢について、林業白書の図をコピーして貼り付ける、森林・林業実務必携を調べるなどして検討し、自分が知りたいと思ったことも調べてルーズリーフにまとめました(チャキチャキと紙を切ったり貼ったりするのはつらい勉強の中でいい気分転換になりました!)。ただ、卒業研究のテーマ決め(研究室により時期は異なると思いますが)など、いろいろなことをこなさないといけない中で勉強が思うように進まず、自業自得ですが苦しい思いをしました。ただ、すべての範囲を完璧にする必要はないと思っていた(私は6割くらいの得点を狙っていました)ため、調べてもサッパリわからないしあまり出ないような問題には早めに見切りをつけて次に行っていました。

二次面接&官庁訪問

二次面接(人事院面接)のスコアによっては最終合格が得られない位置にいた(多分面接でD評価あたりをとったら落ちるスコアだと当時は思っていました)ため、少しでも印象を良くするためにどうしようかいろいろと考えました。そこで役立ったのが1次試験合格者対象の説明会です(私の場合指定された面接日が遅く、説明会に参加してから人事院面接に臨むことができました)。他省庁のブースで「人事院面接のコツとかありますか」と聞いたら若手の職員さんがいろいろと教えてくださいました。実際にいろいろと聞いてみることも手かと思えます。人事院面接では笑顔を大切に、ほどほどに外見に気を遣い、リラックスしていつもの自分を売り込むつもりで臨みました。リラックスして普段の受験者でいられるよう面接官の方も気遣ってくれるため、逆に「こう聞かれたらこう答えよう」とかっ

り話すことを決めて暗記する…なんてことはしない方がいいと思いました。

官庁訪問では複数回面接があったのですが、2回目の面接でなぜかド緊張して自分の言いたいことがまともに伝えられませんでした。その次の面接はきっちり切り替えてとにかくやる気や自分の思いをアピールするようにしました。2回目の面接で相当トチったにも関わらず内定を頂けたのは、他の面接で環境省の仕事を理解した上で自分がしたいことをアピールできていたことを評価していただいたからだと思います。あと、やる気が何よりも大事だったかもしれません。

| アドバイス

レンジャーを目指す人の中には、「レンジャーが第一志望だけれども、もし内定を貰えなかったら就職に困るし、併願先も考えなくては…」という人も多いと思います。私もそのうちの1人で、選考の日程が国家公務員より大分先の併願先を受験する中で「ここに受かったら行ってもいいな…」と思うこと、多々ありました(第一志望ではあったのですが、当時はちょっとおかしかったのかプレプレでした)。ただそこで思い直すことができたのはOB訪問でお世話になった先輩と何回か飲みに行った(何回かおごってもらった)ことや研究室で一時期「レンジャーになるんや」と言いまくっていたことが大きかったかなと思っています。国家公務員への内定は勉強の期間を含めると結構長い道のりになります。心が折れることのないよう、自分で自分を鼓舞するというか、そういうことも大切かなと思います。

内定者 B の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 6 年・女性・25 歳
【参加した説明会・回数】1 次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ等・4 回
【併願先】国家総合職、民間（農業共済組合）
【インターンシップ】なし（本省以外では、県職員、動物病院、動物園、農業共済組合、鳥獣保護センター、NPO 等）
【試験区分】林学 【専攻科目】獣医学（病理学）

志望動機

これからの世代にも、豊かな自然があり、その中で多くの生き物が生きて行けることが願いです。そのために必要な、人と生き物が共生できる仕組み作りに携わりたいと思い、志望しました。大学で自然系の部活に入り活動する中で、自然を守りたいと行動する人々に出会い、野生動物に関する調査や研究も数多く行われていることを知りました。いざ、自分がどんな仕事をしたいのかと考えたとき、それらの声を活かせる人になりたいと思いました。

勉強方法

勉強方法

1 月から本格的に勉強し始めました。独学のため安心要素が何もなく、研究室以外の時間は殆どすべて勉強に費やしていました。

基礎能力試験

過去問と解説が掲載された「国家一般職教養試験過去問 500」で、判断推理・数的推理・資料解釈を重点的に勉強しました。時間を計って解き、それからじっくり答え合わせをしました。1 問 5 分では到底解き終わらず、解きやすい問題を半分選び 10 分掛けて解くことにしました。文章理解は、「公務員試験マル秘裏ワザ大全」に目を通しました。選択肢の絞り方を解説した本ですが、その中でも「公務員的な答えを選ぶ」という方法はなかなか有用でした。英文に関しては、総合職のために TOEIC の勉強をしていたことが、少しだけ役立ったかもしれません。知識分野については殆ど勉強していません。「速攻の時事」を読みましたが、苦手過ぎてあまり効果を上げられませんでした。

専門試験

人事院から過去問を取り寄せました。時間が掛かるので、なるべく早く請求することをお勧めします。過去問の選択肢について、「森林・林業白書」「森林・林業実務必携」を用い、ひたすら調べるといった勉強法でした。どうしてもネットを頼らなければならないときは、検索画面を印刷しファイルに閉じていました。書き込みができ、見直しもできるので便利です。大学の専攻外であったため、1 問の選択肢を調べきるのに 1 時間では足りないというペースでした。総合職 1 次試験で選択した森林環境科学と森林資源科学は一般職林学の出題範囲と重なっていましたが、更に踏み込んだ内容も聞かれるので、そのための対策が必要です。

力を入れるならば配点の高いここで稼ぐのが得策かと思います。

専門記述試験

総合職 2 次試験のときに記述対策をしたので、それを見直しました。総合職では、先輩から頂いた過去問の解答例を参考に、自身で解答を作成しノートにまとめていました。また、森林・林業白書を読み込みました。

二次面接&官庁訪問

友達とファミレスで面接練習をしました。志望動機を固めることと、入って何がしたいのかを具体的に考えることは、自分のやりたいことと環境省での仕事が本当に一致しているのかを見つめ直す上で重要だと思います。自身の経験を掘り下げるときは、初めは、自分の持ち合わせているエピソード→仕事にどう活かせるのか、と考えていましたが、環境省の求める人物像（つまり仕事に活かせること）→それを言うためのエピソード、と考えるとすっきりしました。

二次面接は、そのままを見て頂けるので、無理に評価を上げようと気張らなくてもいいのかもしれませんが。C 判定でも通るので十分です。

官庁訪問ではかなり緊張しており、内定者の声で読んだ‘無理して周りの人と話そうとしなくて良い’という言葉信じ、ひたすらに訪問者カードを読み返していました。でも、ほんとはちゃんと周りの人とコミュニケーションを取った方が良いのかもしれませんが。

| アドバイス



の前のことを、一つずつ着実に。そう自分に言い聞かせながらこの一年を過ごしてきました。勉強に就活に卒論に…同時に全力を注いでいては、心も体も持ちません。総合職との両立も正直大変です。選考が進むほど、一般職に割く時間が少なくなります。研究室の同期、友達など周囲の人を頼ってください。就活で大変なのはお互い様。だからこそ、助けてくれます。

就活が始まるまでに時間の許す限り、インターンや実習に行くといいと思います。それが自身にとって満足の行く就活にできるかどうかの鍵だと思います。私はあらゆる分野を見た上で、環境省を選択しました。就活、大変ですが、応援しています。

内定者 C の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 6 年・女性・24 歳

【参加した説明会・回数】霞が関 OPEN ゼミ、一般職各府省合同業務説明会等 3 回

【併願先】国家公務員総合職、民間 【インターンシップ】なし

【試験区分】林学 【専攻科目】獣医学（公衆衛生学）

志望動機

幼い頃から動物と自然に触れる機会が多く、物心がついた頃には野生動物・自然を守りたいと考えるようになっていました。大学では自然系の部活に入り、野生動物の調査活動への参加や、探鳥、自然観察をしていました。その中で、地域の自然や野生動物、そしてそこに関わる人々との交流も多くありました。そこでの活動を通し、地域の方々の思いを繋いでいきたいと思い、志望しました。

勉強方法

勉強方法

11 月頃から少しずつ勉強を始めていましたが、中だるみをしてしまったり、民間の就職活動や研究室もあり計画通りに進まないことも多くありました。併願を予定されている方、忙しい方、可能であれば早めに始められることをお勧めします。また、ときには遊んでメリハリをつけることも大事だと思います。

基礎能力試験

専門試験に多くの時間を割くようにしたので、あまり勉強できませんでした。時間のあるときは問題数が多く、苦手だった数的推理・判断推理・資料解釈を参考書で勉強をしていました。それと時事以外の科目は過去問だけでした。過去問は時間を計りながら本番と同じように解いた後は、わからなかった問題を見直すようにしました。

専門試験

過去問を基本に勉強をしました。10 年分くらいやりたかったのですが、5 年分しかできませんでした。過去問を解きながらわからないものを林業白書、林業実務必携、インターネットなどを利用して一つずつ調べ、理解しながらやっていました。しかし、数式など難しすぎるところは深追いをしないようにしました。何度か出題されているような、重要なポイントは特に覚えるように努めました。

専門記述試験

記述のための特別な勉強はしておらず、過去問を解くことしかできませんでした。過去問を解く際には、自分の考えを箇条書きにし、頭の中で簡単にまとめるというように解きました。あとは「森林・林業白書」の最新のトピックやコラムを読むようにしていまし

た。

二次面接&官庁訪問

面接は友人や家族、学校の就職センターで練習をさせてもらいました。最初は準備をしても、自分の考えを伝えることが難しかったですが、何度も練習をすることでスムーズに話せるようになりました。試験には直接つながらないかもしれませんが、息抜きも兼ねて普段から環境関連のニュースや環境省のホームページ等をチェックするようにしていると少し自信ができました。また、民間で何度か面接を行っていたのもあって当日は落ち着いて臨むことができました。

| アドバイス

就職活動では皆様も大変悩まれると思います。私も自分のやりたいこと・向き不向き・何を一番にするべきなのか等とても悩みましたし、途中でくじけそうにもなりました。しかし、やはり最終的には「ここで働きたい！」という気持ちが強くありました。官庁訪問では直接環境省の方とお話しをすることができ、緊張よりもワクワクしました。「ここで働きたい！環境省でこういうことをしたい」という思いを伝えることができたと思います。皆様のご健闘を心より願っています！

内定者 D の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業

【学年・性別・年齢】既卒・男性・30歳

【参加した説明会・回数】なし

【併願先】なし

【インターシップ】なし

【試験区分】林学

【専攻科目】水圏生態学

志望動機

学生時代は環境省のことはまったく考えておらず、漁業に関わる仕事に就きました。自然を守るというより利用する立場です。その後転職の縁があり仕事内容は一転、自然環境の保全に携わるようになりました。自然の利用と保全どちらにも関心が向くようになり、両者に携われる仕事は環境省だと思い、志望しました。

勉強方法

勉強方法

人事院試験を突破するには得点率6～7割を獲得すればよいと聞いたので、これを目標に勉強に取り組むことにしました。まず実力を知るため過去問を3年分ほど解き、それからどの分野であと何点稼ぐか計画を立てました。ただ勉強している間に得意不得意分野が変わってきたので、それに合わせて目標点も変えていきました。また長丁場の試験に耐えられるように、休みを取らずに勉強する時間を少しずつ伸ばして集中力を鍛えました。

基礎能力試験

知能分野は数的推理と判断推理を中心に勉強をしました。英語は単語帳DUOをほぼ毎日少しずつ読み続けていました。試験1～2ヶ月前からは現代文、英語、資料解釈の問題を毎日1、2問ずつこなすようにしました。知識分野は時事や政治等の内容が重複するものを中心に勉強し、他の分野はあまり深追いせず頻出だけを押さえて試験に臨みました。

専門試験

コピー印刷した過去問5年分を分野ごとに切り貼りして、ルーズリーフにまとめました。フリクションなど消せる赤ペンで余白に解答と解説を書き、赤シートを使って学習を進めました。林業は専門外で、解答や解説を見つけ出すことが一番の課題でした。政策の問題は、定番の「森林・林業白書」「森林・林業実務必携」で探し出せましたが、それ以外の分野は、解答を見つけるところか理解することも難しく、ホームページで基礎的な知識を押さえながら少しずつ学習を進めました。それでもあまりに難しい分野は、思い切って学習を諦めました。

専門記述試験

林業白書や林野庁が発行している情報誌「林野」に載っている重点的な政策や事業について考えることを対策としました。考えるといっても勉強の合間にぼんやり考える程度で、気になる課題や対策などが頭に浮かべば、ホームページで調べていました。林業従事者と話す機会があったので、政策の意味を考えるきっかけは多かったと思います。それと普段パソコンでタイピングしていると、意外と文字を書くことを忘れてしまうので、試験1ヶ月前からは面接の模擬対応を作ることで、文字を書くようにしていました。

二次面接&官庁訪問

面接官が興味を持ちそうな内容で、言って欲しい質問が導かれるように面接カードを書きました。ちなみに社会人8年目にもなっていたので、学生時代のエピソードは記入していません。志望動機で環境省への思いを述べるのは当然ですが、他の質問事項でも自然に興味がある、他者と話すことが得意など、何を書けば環境省へのアピールになるか十分に考えて記述すると良いと思います。また自分の気持ちを伝えるだけでなく、面接官と一緒に働きたい奴と思ってもらえるよう意識しました。

アドバイス

私 は一途に環境省だけを思い続けていたわけでは無かったのですが、それがかえってなぜ数ある選択肢の中で環境省なのかを考えるきっかけになっていました。環境省になぜ入りたいのか、しっかりした思い、考え方が勉強のモチベーションになり、面接の返答にも表れます。環境省を目指す皆さんも自分なりの思いを持って臨んでください。試験勉強は面倒が多いです。根を詰めすぎず、適度な息抜きをしながら頑張ってください。

内定者 E の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・男性・22歳
【参加した説明会・回数】各府省合同業務説明会など、4回程度
【併願先】特別区、市役所 【インターンシップ】なし
【試験区分】土木 【専攻科目】資源経済

志望動機

昔から動物や自然が好きで、将来はそういったことに少しでも携われるような仕事に就きたいと考えていました。そして環境問題などについて勉強していく中で、自然環境を守るには、技術的なことだけではなく、多くの人の理解が必要であることに気づき、国立公園やレンジャーの仕事に関心を持つようになりました。そんな中、釧路湿原を訪れて木道を見たとき、その素晴らしい光景に感動し、私も土木レンジャーとなって自然と訪問客の両者へ配慮した環境整備を行いたいと思うようになりました。このような想い、そして3年生の頃に参加したサマートライアルでの経験から、私は環境省を志望しました。

勉強方法

勉強方法

私が公務員試験の勉強を始めたのは、3年生の7月頃でした。長期間の試験勉強となるので、しっかりと計画を立てて乗り切ろうと考え、まずは試験について調べ、試験日から逆算していき、時期ごとに目標を定めました。そして曜日ごとにどの科目をどれくらいやるのかを決めて習慣づけることで、自分の中での勉強のペースをつくりました。また完全に勉強をしない日を決めて、息抜きできる環境をつくりました。こうすることで私は長期間の試験勉強を乗り切ることができました。

また、参考書などは各科目についてたくさん買うのではなく、同じ問題を何度もやることで、その1冊を完璧に解けるようにしました。そして現在の自分のレベルを知るため、そして本試験の傾向予測を行うためにも、たくさんの模試を受験しました。

基礎能力試験

数的処理と文章理解の問題は、毎日解くように習慣づけました。わからない問題も制限時間を設け、それ以上は考えずに、繰り返し解くことで出来るようにしていきました。

知識分野では、自然科学などは高校の教科書などを参考に、他の科目に関しても頻出の問題だけを完璧に解けるように仕上げました。

時事問題は設問数も少ないため、「速攻の時事」を一通り読み、毎日テレビでニュース

をチェックする程度で、特に対策はしませんでした。

専門試験

私が受験した試験区分は、専門外の分野でしたので、1から勉強するのはとても大変でした。過去問ベースで問題に慣れ、復習を重ねることで、一問一問確実に解けるようになっていきました。

専門記述試験

過去問数年分に目を通し、自分なりの解答をまとめました。最初は、国土交通白書などを参考にして作成し、徐々に時間内に書き終えることを目標として練習しました。またその都度書いたものを他の人に読んでもらおうと、自分だけでは気づくことができなかった反省点なども見えてくるので、おすすめです。

二次面接&官庁訪問

面接では、笑顔を忘れずに、相手の目を見てはっきりとした口調で話すよう心がけていました。また、私の場合は事前に、他の公務員試験で面接を行う機会があったので、それが練習の場にもなったのではないかと思います。

二次面接では、面接カードに沿って質問されるので、少なくとも書いてある内容はしっかりと話せるようにしておく必要があります。

官庁訪問では基本的に提出する訪問者カードから質問されますが、中には想定外の質問を受けることがあります。しかしそこで思考停止するのではなく、少し言葉に詰まったとしても、話そうとする姿勢を忘れずに、面接に臨むとよいと思います。

| アドバイス

就

職活動をしていく中で、色々と不安になることがあると思います。特に公務員試験は結果が出るまでの期間が長いので、その間に友人からの内定報告などを耳にすると、焦る気持ちも出てきてしまいます。そんな時はもう一度自分を見つめなおし、なぜ環境省を志望したのかを考えてください。また時には、民間企業の説明会に参加してみることで、自分がこのまま公務員を目指していいのかと立ち止まって悩むことも大切だと思います。

また私の場合は専門外の試験区分での受験でしたので、そこに関する不安もありました。そのような時は、説明会などで実際に環境省の職員の方に質問することで、諸々の心配事を解消してきました。独学で勉強して同じような不安を持っている方は、説明会などの機会を活用して、職員の方に疑問をぶつけてみてください。1人で抱え込んでいても解決しないこともあります。適度に息を抜きつつ、みなさん悔いのないよう、試験勉強頑張ってください！最後まで読んでいただきありがとうございました。

内定者 F の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 4 年・男性・22 歳
【参加した説明会・回数】1 次試験後の合同説明会
【併願先】県庁
【試験区分】土木 【専攻科目】環境衛生工学

志望動機

私は高校の授業で河川や雨水の汚染実態調査を行ったことがきっかけで環境というものに興味を持ちました。なので、大学でも環境についての研究をしたいと考え、メインの勉強は土木でしたが、研究室に入り環境の分野を学ぶことができ、論文では河川の汚染実態調査をしました。就職では私が興味のある環境についてはもちろん、大学でメインに学んできた土木の知識も活かせる仕事につきたいと考えていました。そんな時に、1 次試験後の合同説明会で環境省の方のお話を聞き、まさにこれまで私が学んできた土木、環境などの知識を活かせる運命的なものを感じ環境省への就職を強く志望しました。

勉強方法

勉強方法

勉強をはじめの前に基礎能力試験、専門試験ともに過去の試験問題を 3 年間分解き、自身の得意・不得意を理解し、それぞれにあてる勉強時間を分析し計画的に進めていくようにしていました。

基礎能力試験

私は得意分野であった数的処理と判断推理について最初に勉強を行い、試験 1 か月前から苦手分野の勉強を行い、最後の 1 週間は過去の試験問題と苦手な問題を並行して行いました。

専門試験

土木は構造力学、土質力学、水理学、物理、数学が主な出題範囲のためまずはこれらの問題集を 3 周行い、その後、過去の問題や主な出題範囲外の分野についての問題集を解き試験に臨んだ。

専門記述試験

専門記述試験については特に対策は行いませんでしたが、専門試験の勉強や大学で学んだ知識などで過去の問題を私ならこのように考えるだろうというシミュレーションは行っていました。

二次面接&官庁訪問

二次試験に関してはまず面接カードの制作のために先生や大学のキャリアセンターの方などに添削を行っていただきました。本番の面接については面接カードの内容に沿って行うため緊張せず、面接カードに記載した内容のエピソードをしっかりと考え、自分の言葉で説明できるようになることが重要だと感じました。対策としては練習としてまず身近な人に聞いてもらい、次に先生や大学のキャリアセンターの方などとの模擬練習など徐々に慣れておく必要があると思います。なお、面接での話す内容は自分の体験に対し細かく思い出しその体験に対して自分がどんなことを感じどんなことを得たかなど考えを深めることが私自身、重要だと感じました。

アドバイス



自分自身がこの先、仕事にしていきたいことややりたいことは何なのかをしっかりと考察することが就職活動には必要だと感じました。その考えが決まれば筆記試験への勉強への意欲、面接で自分が伝えたい内容が自ずと浮かんでくると思います。そして、それが環境省の自然レンジャーならばその気持ちを面接で伝えることであればその気持ちが面接官の方の気持ちにも届き、内定がいただけるのではないかと私は感じました。

内定者 G の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 4 年・男性・22 歳
【参加した説明会・回数】合同説明会 一次試験合格者向け合同説明会 各一回
【併願先】地方上級（土木職） 【インターンシップ】なし
【試験区分】土木 【専攻科目】社会基盤工学 環境都市工学

志望動機

旅 行や登山が好きで以前から国立公園に触れる機会が多くありました。そのため、環境省自然系の仕事に興味を持っていました。そんな中で、参加した業務説明会でレンジャーの仕事は自然の保護だけではなく、その適正な利用にも重きを置いたものであるとお話を伺いました。

7 年間学んだ土木工学の知識を生かして素晴らしい自然公園の魅力を正しく発信できればと思い、志望しました。

勉強方法

勉強方法

公務員試験を受けた何人かの友人と話をしても勉強の仕方は人それぞれようです。自分に合った勉強方法を早い段階で確立することが大切だと感じました。（私ができていたかといわれると疑問ですが…）試験ごとに感じたことをまとめたので良ければ参考にしてみてください。

基礎能力試験

科目数が多く、それぞれの出題範囲が非常に広いことが特徴だと思っています。そのため出題数の比較的多い科目を効率よく学習することがポイントだと思います。具体的には数的処理や判断推理、資料解釈や時事問題です。私の場合はこれらの教科に基礎能力試験学習の大部分を使いました。

専門試験

土木系の公務員試験のテキストを繰り返し利用しました。私の場合、何個もテキストに手を付けていくよりも、一つのテキストを繰り返し学習して理解していく方法で内容が身についたように感じます。一般的に「三力」と呼ばれる構造力学、水理学、土質力学の三科目は出題範囲も比較的狭く出題傾向も似ているので得点につながりやすいと感じました。

専門記述試験

特に対策はしていませんでした。専門的な知識も必要ですが、時間との兼ね合いも大切

になります。試験の際はこういった構成で文章を書くのかということをはじめにまとめてから本文を書くように意識しました。

二次面接&官庁訪問

面接カードに沿った質問が多かったです。面接カードを作成する段階で熟考しておくことが大切かと思います。試験前はどうしても筆記試験に意識が行きがちかと思いますが、面接の対策も重要だと思います。かといって特別なことをしなくてはいけないわけではなく、本当に入省したいのか。それはなぜか。という部分を自分の中できちんと整理しておくとういかに思います。

| アドバイス

就 職活動を通して将来のことを考えるいい機会になったと思っています。多くの情報を得て希望の就職先に就職できることを祈っています。

| おわりに

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。いかがでしたか？参考になる方法もあれば、もしかすると全然共感できない方法があったかもしれません。私たちが自分なりのスタイルを身につけて内定をつかみ取ったように、皆さんも自分に合ったやり方を見つけて試験に挑んでください。本紙がそのお役に立てていれば嬉しく思います。

私たちが「内定者の声」を執筆していたちょうどその頃、1月23日に群馬県本白根山が水蒸気噴火を起こしました。気象庁も想定外の災害で、自然環境を扱う難しさを知らしめる出来事でした。私たちは美しい自然環境の最前線に立てる一方で、そのダイナミックさに向き合うため、これから色んなことを学んでいかなければいけないと思います。試験合格はひとつのゴールであり、新たなスタートラインに立つことでもあります。いつかは頼れる先輩(?)として、環境省を志すみなさんとお会いできる日を楽しみにしています。

平成 30 年 1 月

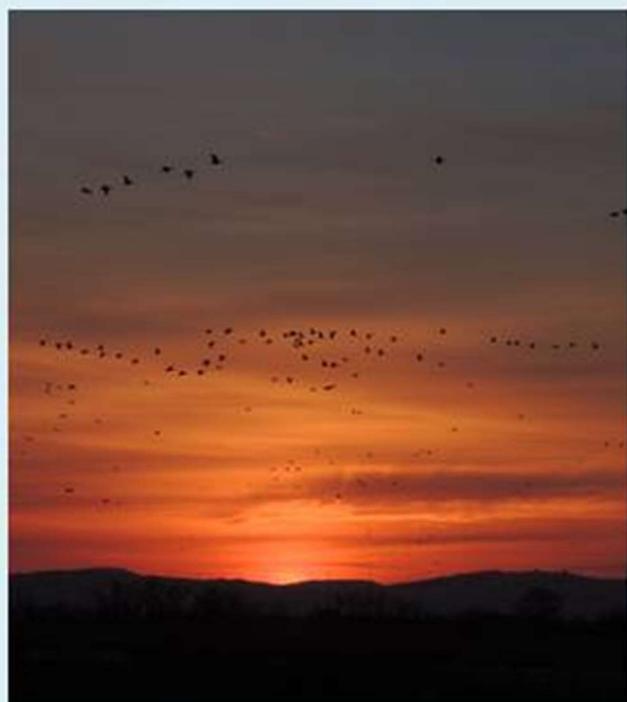
平成 30 年度環境省入省予定 一般職自然系職員内定者一同

※環境省について

環境省の職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は平成 30 年度環境省一般職自然系区分の内定者で作成しています。詳しい業務内容等に関しては下記 HP を参照、または記載の連絡先よりお問い合わせください。

○環境省 HP <http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP <http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>



平成30年度 入省予定
環境省一般職自然系 内定者の声

